

平成 19 年 12 月 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト(からほり倶楽部)

共同事業者名(いる場合のみ記入してください)

劇団 10×10×10

2 事業のテーマ・タイトル

空堀界隈を題材にした演劇制作とまちづくりのタイアップ・チャレンジ

応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7 月	第1回打ち合わせ：17 日(火) 事業の大枠、作業スケジュール、予算概算など詰める必要のある事項を確認。事業は「演劇マップ(ロケーション・マップ)づくり」と「ディレクターズ・ツアー」のほか、空堀を舞台にした芝居「きっかけはサザン」の「録画上映会」を実施することが決定。ツアーと上映会は 10 月末開催予定のからほりまちアートに合わせることにした。 第2回打ち合わせ：23 日(月) 前回打ち合わせ時の確認事項に関して、からほり倶楽部側と劇団側の案を持ち寄り、すりあわせを行う。また、「きっかけはサザン」の應典院での公演時(8 月)に向けて、演劇マップの試作版を作成することにする。
8 月	第3回打ち合わせ：6 日(月) 事業計画案を確認する。演劇マップ試作版の素案をもとに細部を検討する。 劇団 10×10×10 の公演鑑賞：18 日(土) 應典院での公演をからほり倶楽部側が鑑賞する。演劇マップ試作版を配布し、空堀界隈への案内を行う。 第4回打ち合わせ：20 日(月) 演劇マップの本制作に向けて、公演時の観客の反応などを振り返り、改良案を検討する。
9 月	第5回打ち合わせ：3 日(月) ディレクターズ・ツアーのコース設定、集合場所、スタート時間などを詰める。 録画上映会の開催場所を見学する。 からほりまちアート・アーティスト交流会：9 日(日) タイアップ・チャレンジのPRを行う。 第6回打ち合わせ：10 日(月) ディレクターズ・ツアーと録画上映会のスケジュールなど最終調整を行う。演劇マップの改良案をもとに検討を行う。
10 月	第7回打ち合わせ：1 日(月) 演劇マップの最終原稿にもとづき細部のチェックを行う。ディレクターズ・ツアーと録画上映会での準備作業を確認する。 第8回打ち合わせ：15 日(月) ディレクターズ・ツアーと録画上映会の直前準備と当日の段取りを確認する。予算の支出状況を確認する。 録画上映会前日設営：26 日(金) 丸与ホールにて録画上映会の設営を行う。

	【事業実施】 1. 演劇マップ(ロケーション・マップ)「空堀練り歩きマップ」 劇団 10×10×10 が空堀のまちを舞台に制作し、上演した演劇「きっかけはサザン」にもとづいて、芝居に出てくるシーンの現場や脚本執筆時などにインスピレーションを受けた場所などを記した演劇マップを作成した。 演劇マップは 8 月の演劇公演時に試作版を作成し、観客に配布するとともにその反応を見て、本印刷に供えた。 10 月末のからほりまちアート時に開催した録画上映会やディレクターズ・ツアーの参加者全員に配布するとともに、からほりまちアートの参加者にも広く配布した。 2. 録画上映会「空堀のまちが舞台になった……劇団 10×10×10『きっかけはサザン』上映会」 演劇マップのもとにもなった劇団 10×10×10 の演劇「きっかけはサザン」の録画上映会をからほりまちアートの両日に実施した。 8 月のシアトリカル應典院での公演時に芝居を撮影し、その DVD を用いて上映会を行った。 上映会は商店街内の丸与ホール 2 階(防音施工済み)を借り、両日とも 11:30、13:00、14:00 の 3 回開催した。参加者は計 41 名。 3. ディレクターズ・ツアー「10×10×10 と巡る空堀ディレクターズ・ツアー」 演劇マップを用いて、演劇「きっかけはサザン」の舞台となった場所などを演劇制作者の案内で巡るツアーをからほりまちアートの両日に実施した。 集合・出発場所は空堀桃園公園南口とし、上町中学校 谷町筋 商店街 空堀桃園公園 萌・直木三十五記念館 御抜い筋 練 高津原橋というコースを設定した。 スタート時間は両日とも 14:30 と 16:00 の 2 回ずつで、参加者は計 21 名となった。
11 月	
12 月	事業報告書のとりまとめ
1 月	
2 月	

実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	【個別事業効果】 1. 演劇マップ(ロケーション・マップ)「空堀練り歩きマップ」 からほり倶楽部ではこれまで「からほり絵図」と題したまち歩きマップを数次にわたり作成してきたが、これまでのマップづくりの視点とは違う視点を得たため、「からほり絵図」の新しい可能性を見出すことが出来た。 また、ともすればマンネリ化しがちなマップの改訂作業も、他者との連携・協力によって新鮮味が増したり、新しい発想を得ることが出来た。 2. 録画上映会「空堀のまちが舞台になった……劇団 10×10×10『きっかけはサザン』上映会」 収容人数が 12、3 名という上映場所のキャパシティと、少々わかりづらいところがあったため、参加者は 41 名となったが、参加者の反応は良好であった。 映写というかたちにはなったが、からほりまちアートに演劇や映像がより参画しやすくなるための前例をつくることができた。 3. ディレクターズ・ツアー「10×10×10 と巡る空堀ディレクターズ・ツアー」 初日(27 日)の天候が良くなかったため、参加者数は少なかったが 2 日目(28 日)は好天に恵まれ、参加者も増えた。 演劇制作者、脚本家という視点から切り取ったまちは、これまでのまちづく
-----	--

	りやアートといった視点とはまた違ったまちの姿を知るキッカケになった。 【全体効果】 ▲ 空堀界隈の新たな魅力とまちへの視点の獲得 演劇の世界からまちを切り取ってもらい、それを芝居だけでなく、マップやまち歩きという形で分かりやすくすることにより、企画当初から期待されていた空堀界隈への新たな魅力とまちへの視点を獲得することが出来た。特にスポットが当たった路地より細い抜け道や廃校となった小学校などは、これまであまり注目されなかった要素であった。 ▲ 「からほり絵図」への新風の吹き込み これまでほぼ毎年作成してきたまちの紹介マップ「からほり絵図」に対し、演劇とのコラボレーションによって、マップの未知の力を見ることが出来た。また、マップ作成がルーティン化、マンネリ化しがちな時期に、新鮮な発想や切り口と出会い、来年以降の取り組みが活性化できそうである。 ▲ からほりまちアートへの演劇・映像参画の可能性拡大 これまで展示が中心であったからほりまちアートに、演劇や映像アートが参画する可能性を広げることが出来た。
今後の 展 望	▲ 直木三十五記念館とのタイアップにより、直木三十五にスポットを当てた演劇の創作を模索する。 ▲ 「きっかけはサザン」の録画上映を直木三十五記念館のイベントでも実施するなど、マップ以外のツールの活用も図っていく。 ▲ 今回の取り組みを広くアピールすることでさまざまな分野の人たちが、空堀界隈に関心を持てるよう努める。

「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。